

2023.12.9-10希望創発研究会（12月例会・オンライン）を実施

ホーム > 希望創発研究会 > 例会実施報告

希望創発研究会
教育研究システム
研究テーマ
研究会スケジュール
例会実施報告
参画メンバー
参画メンバー募集について

2023.12.9-10希望創発研究会（12月例会・オンライン）を実施

公開日 2023年12月19日

ZIGZAG (ジグザグ)

(1) 全体説明：全メンバーに向けたチーム活動紹介時間3~5分程度/チーム

(2) ZIGZAG：グループ別チーム活動紹介時間
(紹介：5分、意見交換：17分、コメント作成：3分 計25分) × 4名 = 100分

ZIGAGUの説明：チームメンバーは、それぞれグループ1~6にわかれます。各グループ内では、自チームを代表して他チームメンバーにチームの進捗状況を紹介し、意見を交換します。寄せられた意見を自チームに持ち帰り、今後のチーム活動の参考にするワークショップです。

グループ内でチーム代表者ごとの紹介・意見交換等の時間配分 合計：100分
▶チーム1 (25分) ▶チーム2 (25分) ▶チーム3 (25分) ▶チーム4 (25分)

グループ1
グループ2
グループ3
グループ4
グループ5

ブレイクアウトルームにて
計5グループ

12月9日（土）-10（日）、希望創発研究会（12月例会・オンライン）を実施し、県外企業人、高知県内企業人合せて10名、学生9名、その他関係者14名、参画企業関係者5名の計38名が参加しました。

1日目

進捗状況報告、チーム対話

これまで半年間、各チームで取り組んできた研究活動の進捗状況について報告を行いました。これは3月に行われる最終報告に向けて、質問や意見をいただくことで自チームだけのチームワークでは気づけなかった課題や問題点に気づき、残り3ヶ月となった研究会活動のブラッシュアップの機会になっています。チームメンバーがシャッフルされた小グループに分かれて、研究テーマに込めた想いやプロセス等の報告を行いました。

午後からのチーム活動では、いただいた意見をもち寄り、対話を重ねました。



明日からはじめる ローカルプロジェクト

～覚えておくとなぶん役立つ9つのメソッド～

若狭健作
わかさけんさく



(株)地域環境計画研究所 代表
南部再生編集人・好吃食堂店主



2日目

セミナー「明日からはじめるローカルプロジェクト～覚えておくとなぶん役立つ9つのメソッド～」

講師：若狭 健作氏（株式会社地域環境計画研究所 代表取締役）

昨年度に引き続き、尼崎市のまちづくりの仕掛け人である若狭氏を講師にお迎えし、プロジェクトを始める際に身近なところから始められる視点について、「勝手にしやがる」や「交代でやってみる」等9つのメソッドに沿って様々な取り組み事例の紹介がありました。質疑応答では「尼崎にこだわる理由」や「コトを始める時の入り方は？」、「アートやイケてる等センスに刺さるようなものは人に関心を持ったもらうために必要な要素と感じているか？」等様々な角度からの質問があり、研究会活動へのヒントを得る機会になりました。

チーム対話

午後からはセミナーで得られたヒントを踏まえて、チーム対話を行いました。

今回の例会では、これまでのチームでの活動を報告することで、曖昧な部分が明確になり、具体的に取
り組むヒントを得られたようです。残すところ1月、2月、3月の3か月となった希望創発研究会。今後も
研究活動は続きます。

<参画者の声>

■協働セミナー「明日からはじめるローカルプロジェクト」での学び、感情の動きなど

・取組が住民と一緒にやる事が、継続のポイントになっている。如何に巻き込むか、とまず自分と協力者
を一人見つけて実施する事が大事なんだと学んだ。改めて高齢者(人生の経験者)が主役になれる場を提供
できるアイデアを探していきたいと感じました。

・小学生からやり直すや、泥団子など、どれもとても面白い取り組みで、「面白がる」ことの大切さ、人
が自分で動きたくなる仕掛け、「目的」を先に言ったら負けにとっても感銘を受けた。また、人が楽しんで
いる風景を思い浮かべながら考えるといいアイデアが出そうだと感じた。

・とてつもないエネルギーを頂いた気がしています。共感できる部分が多いのにとんでもないことを行っ
ているような独特の感覚がありとても楽しかったです。

若狭さんのような方が各自治体に一人ずついるような世の中になればもっと良い国になると思いました
し、希望創発のようなプロジェクトで育成すべき人材ではないかとも考えました。

自分自身もなるべく楽しい発想で物事を捉えたいと思っていますが、すぐに硬い考えに寄ってしまうので
重要な場面では若狭さんを思い出したいと思います。

■進捗状況報告会やセミナーを踏まえて、両日のチーム活動で得た「結果(分かったこと)」、それを踏 まえて「次回以降どうするのか」

・簡単に始めるし、簡単にやめるというのがすごく印象に残った。いろいろな意味で、試行錯誤を繰り返
し、行動に移す。いいと思ったら、すぐ始める。明日から始める。間違ったと思ったらすぐ修正する、や
める。この判断って、簡単そうで大変難しい。特に、巻き込む人が増えれば増えるほど簡単なわけじゃな
くなってしま(影響が出ます)。軽快に動きながら、熟考することが大事なのかなと思いました。

・創発するという意味がなんとなく理解できたような12月でした。

チームでワークするという感覚とチームで共通する何かを見つけ、どのような価値を提供できるのか?と
いう大きな視点で物事を考えられるように少しだけなったような気がしています。ありがとうございます。

[トップページへ戻る▶](#)

希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1
国立大学法人 高知大学 学務課
学習・研究サポート係（希望創発センター）
TEL:088-844-8440

© 2019 高知大学希望創発センター